



TOYAMA
CANAL
MUSEUM

新世代に向けた富山カナルミュージアムとその周辺の賑わい創造構想

富山の中心部としての役割

1

富山の現状と課題

現地・富山市の現状

●現在富山市中心部の観光の見どころ、目的は？

春の桜の季節は美しく楽しい、富山城跡、現松川エリア。

しかしその時期以外は、「行ってみたい」となるだろうか。「行ってよかった」となるだろうか。

路面電車の街並、環水公園のスターバックス、ブラックラーメン、すし・・・

知ってもらいたい本当の富山の姿とは？



●金沢への旅の「宿泊所」

北陸新幹線の開業以来、年々旅行者が増えている。しかし観光地金沢を目指す来訪者が“ついで”に立ち寄り場所、金沢の宿が予約できない際の受け皿となっている感もある。

その恩恵もあり、富山駅周辺の宿泊施設は増え、建物も次々と建て代わり、

次々と“新しい”きれいな街になっている。

●“富山市の歴史”に触れる機会が少ない。

一方で歴史的な建造物は少なく、観光の目玉がない。 →滞在時間が少ない。

…特に立ち寄りべき場所がなく、

旅の目的が「夜ブラックラーメンが寿司食べて、朝スタバ行って金沢行くか」と聞くことも…

中心としての富山市から周辺都市へ

●富山市以外の市町村には訪れるべきスポットがたくさんある。

富山県には魅力的な観光地として、黒部ダムと立山、朝日町ヒスイ海岸、氷見雨晴海岸、

高岡金屋町と高岡大仏、瑞龍寺、勝興寺、新湊海王丸パークと内川エリア、南砺市五箇山合掌造り集落、

砺波市チューリップ公園、井波の街並みと瑞泉寺、八尾の街並みとおわら風の盆、富山市岩瀬地などがある。 …しっかりと来県者に紹介できているか。

これからの富山中心部の在り方

これまでの富山を、これからの富山のために

●富山の成り立ちからはじまり、灌漑や治水の歴史、産業の歴史などから現地周辺がどのように変わってきたのか。

周辺の運河と県内のスポットとの関連性を紹介し、そこから紐解く現在の富山の姿、将来の富山の姿を新世代の県民、旅行者にも、本当の“魅力的な富山とは”を伝えることができる、

そんな場所が必要ではないか。

5つの「できる」を詰め込んだ3エリア+1

解決案

県民も観光者も、必ず訪れるべき場所へ

富山県民が、ぜひ来て欲しい！、おすすめスポット No.1 を目指して、美しく、楽しく、富山の発見がたくさん見つか、関心が高まるエリアへと整備します。

1. 富山の歴史を学べるエリア = **富山カナルミュージアム**

canal カナル= 運河 を中心に富山の成り立ちを学ぶ

現在の富山県、富山市が世界一わかるミュージアム

昭和初期頃からの近代富山の創生、産業の歴史などを、松川や富岩運河など運河を中心にどのように発展してきたかを、展示するこれまでにない近代歴史博物館

2. 世界と繋がるエリア = **ユースホステル&カフェ**

県内・県外・海外からみんなが集い、富山県の情報もたくさん得られる場所

カナルミュージアムと同じ建物内で出来れば○ …常に人が出入りする場所

3. みんなで集まりたくなるエリア = **芝生公園、県庁敷地 および 商業施設エリア**

明るく、清たく、活気のある、富山を象徴するエリアとして

県庁前公園、県庁敷地、富山城（佐藤記念美術館）ウラの

松川沿い広場の健全化

あまり人影がない場所を再生

4. 学生と市民が交流できるエリア

= **県内大学サテライトシェアキャンパス**

芝生公園（県庁前公園）に、県内の大学が共用で活用するキャンパスを新設

また中高生の自学スペースや社会人の生涯学習の場所として活用

5. エリアを繋ぐ渡りたくなる特別な歩道

= **パススルーブリッジ**

美しいデザインの渡り橋を新設すること

で、スポットと回遊を兼ねた施設に



新世代に向けた富山カナルミュージアムとその周辺の賑わい創造構想
県庁周辺エリアアイデアコンペ



※外観はイメージ

→ 新しさ（形状、色）、優しさ（古い建物から再利用したレンガを使うなど）、寛容さ（大屋根、植栽、エントランスを前後に etc...）で、他の建築とは一線を画すどこかホッとさせるカタチに

富山カナルミュージアム

富山の歴史を「運河」をテーマに学ぶ、最新ミュージアム

いつでもみんなに開かれている、ちょっと寄ってみたいくなる、行くと富山のことがもっとわかり、県内のいろんなスポットにもっと行きたくなる、あたらしい発見があるあたらしいミュージアムをつくります。

●展示内容

- 富山市を中心とした運河と近代産業のつながりと歴史
- 治水について / 神通川、現地ミュージアム周辺の現在までの歴史
- 環水公園周辺について
- 中島閘門について パナマ運河型 ← スケールモデルなどで動きなどしっかり説明
- 運河が富山の生活の中心にあった頃の様子 当時の船や道具の展示
- 昔の倉庫などの一部を再現（移築?）
- 県内の水環境と産業の歴史（黒部ダム開発など）を紹介
- 世界の運河について ← 旅行へ行きたいくなるような展示
イタリア・ベネチア、オランダ・アムステルダム
イギリス・ロンドン、ケンブリッジ、射水市・内川、北海道・小樽 など

●解説員 しっかりと説明できるガイドのツアー

週末には英語のみのツアーも?…外国人向、英語を学びたい学生、社会向

●歴史的建造物（県庁、電気ビル?）見学ツアー（希望）などの拠点として

ユースホステルおよびカフェ

人びとが集う交流の場

カナルミュージアムと同じ建物内に旅行者向けの手頃な価格の宿泊施設を併設します。ユースホステルは特に海外では若者の旅行者に人気があり、旅の拠点となります。他の旅行者とも距離が近く、誰でも使えるカフェも含め、旅行者と一般客と一緒に軽食をとったり、交流が生まれる場所となります。学生の遠征試合やコンクールなどちょっとした集団旅行の受け皿にも使いやすい施設です。

中島閘門 模型などを使って詳しく伝える



周辺の運河にまつわる展示や近代産業の歴史などを紹介



松川

古い船のイメージ 水見市博物館 HP より

昭和初期のようす



富山県富山港湾事務所 中島閘門パンフレットより

世界の運河



新湊・内川

イタリア・ベネチア

イギリス・ケンブリッジ



ドミトリーのイメージ



カフェのイメージ

県内大学サテライトシェアキャンパス / 芝生公園

学べる、使える、みんなの広場



県庁前公園内に、県内の大学が共用で活用する『県内大学サテライトシェアキャンパス』を新設。富山大学、富山県立大学、富山国際大学、富山短期大学の学生と一緒に学習できたり、著名人や各大学の教授の特別講義と一緒に受けられるなど、大学の垣根を超えた横の繋がりを創出。ロビーは一般にも解放し、中高生などが自習できたり、大学生との気軽な交流も生まれます。また社会人向け講座などの生涯学習の場としても最適。JR 駅や LRT 駅からも近く、みんなが集う場所へ。県庁敷地は、現在駐車スペースがメインとなっているため、関係者以外の車の出入りを最小限にして歩行者が入りやすい公園に。

定期的な無料のガーデンシネマ、学生主催のイベントなども

県庁前公園はこれまでのコストのかかる（想像）噴水は廃止し、全体のほぼクロス状に自転車も通ることができるバスだけある、平らな緑地帯に。学生主催や民間など様々なイベントや、キッチンカーの乗り入れ、野外アート展示など、いつも人がいる広場へ。



広々とした芝生エリア



イベントのイメージ



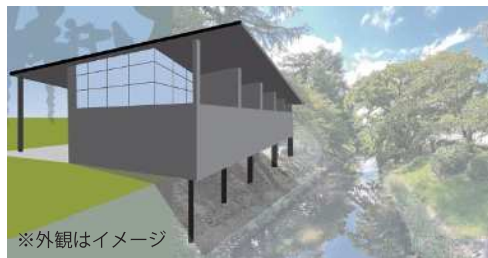
ガーデンシネマのイメージ

松川沿い商業エリア

美しい運河を感じながら、とやまの食を堪能できるスポット

松川沿いの穏やかで心地よい一帯へ

→ 現在の日の当たらない、暗く、ジメジメとした場所、木がうっそうとしてカラスのすみかとなっている重たい空気に包まれる場所から、一転、明るく、気持ちのいいスポットへ変わります。



※外観はイメージ



海外の運河沿いのレストラン

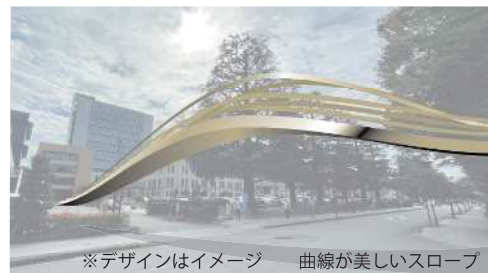
森のような大きな樹木を整備して、陽が差し込む、明るく活気のあるエリアへ変させます。富山湾の新鮮な魚を使ったすし店、地元の素材で楽しむイタリアン、焼ききたパンがおいしいカフェ、くれは梨や地元の牛乳でつくるジェラート店など、食を中心に富山を感じられる店舗を誘致して、県民も旅行者も学生も何度も通いたくなるスポットへ。

パススルーブリッジ（スロープ歩道橋）

各最新エリアを繋ぐ、“通ってみたい！”歩道橋

分断されている提案の各エリアを、緩やかにつないで歩きながら回遊させる歩道をつくります。

ロンドンのミレニアムブリッジのような、モニュメント的で、外から見ても美しく、渡ってみたいデザインに。ライトアップで夜も美しく。



※デザインはイメージ 曲線が美しいスロープ



ミレニアムブリッジ（ロンドン）

北側のカナルミュージアム、シェアキャンパスから、南側の松川、商業施設までを繋ぐ橋。途中建物があるため、グランドラインまで一度下がり、もう一度上がる、ウォークスルー。